

アギナルド	単行本の一部	池端雪浦	1980	フィリピン革命とプロバガンダ運動	山本達郎博士古稀記念 論叢編集委員会（編） 東南アジア・インドの社会と 文化 上巻	山川出版社	119-147	
	論文	沼田由美	1987	19世紀のフィリピン革命と民族主義の 萌芽		海外事情研究 所報告21、拓 殖大学海外事 情研究所	129-141	オープンアクセスなし
	論文	池端雪浦	1989	フィリピン革命と日本の関与	A A 研東南アジア研究第 1 巻 世紀転換期におけ る日本・フィリピン関係、	東京外国語大 学アジア・アフリ カ言語文化研究 所	1-36	
	単行本	ホセ・マリア・シソン （著）／鈴木武 ／岩元エリ子 （訳）	1994	内側から見たフィリピン革命	梓書店			
	単行本	鈴木静夫	1997	物語 フィリピンの歴史	6章フィリピン革命p99- 118、7章アメリカのフィリ ピン占領p119-139	中央公論社		
	論文	池端雪浦	1998	フィリピン革命から百年－英雄をめぐる 論争－	上智アジア学、上智大学 アジア文化研究所		109-121	オープンアクセスなし
	単行本の一部	池端雪浦	1999	フィリピン革命－単一国家と連邦制の せめぎ合い－	樺山紘一／他（編） 『岩波講座 世界歴史 20 アジアのく近代』		245-268	
	単行本	永野善子	2000	歴史と英雄 フィリピン革命百年とポスト コロニアル	神奈川大学評論ブックレ ット； 1 1	御茶の水書房		
	論文	永野 善子	2001	アメリカ植民地期フィリピン議会政治の 生成と展開：1899～1941年	人文研究（神 奈川大 学）144		59-98	https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&action=repository_view_main_item_detail&item_id=12157&item_no=1&page_id=13&block_id=21
	単行本の一部	中野 聡	2002	米国植民地下のフィリピン国民国家形 成	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史（7）植民地 抵抗運動とナショナリズム の展開』		135-159	
	単行本	渡辺孝夫	2009	フィリピン独立の祖アギナルド将軍の苦 闘		福村出版		
	単行本	早瀬晋三	2009	未完のフィリピン革命と植民地化	世界史リブレット	山川出版社		
	単行本	寺見元恵	2014	フィリピンの独立と日本 リカルデ将軍と ラウレル大統領		彩流社		
	論文	遠藤 雅己	2017	「フィリピン人」意識の形成：宗教と言 語から観 た植民地社会における政治的アイデン ティティ	甲南法学 5 7 巻 3・4 号		469-518	https://konan-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&action=repository_view_main_item_detail&item_id=22848&item_no=1&page_id=40&block_id=38
	単行本	池端雪浦	2022	フィリピン革命の研究		山川出版社		

	論文	奥山康治	1984	アキノ暗殺と「一九八四年」	人文論集		169-177	http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/17973
	単行本	芝生瑞和	1986	黄色い花の革命－フィリピン1986		毎日新聞出版 社		
	単行本	加藤博	1986	ラバン－フィリピンの黄色い革命		大月書店		
	単行本	ニック・ホアキン （著）／鈴木静 夫（訳）	1986	アキノ家三代－フィリピン民族主義の系 譜（上）		井村文化事業 社		
	単行本	ニック・ホアキン （著）／鈴木静 夫（訳）	1986	アキノ家三代－フィリピン民族主義の系 譜（下）		井村文化事業 社		
	論文	黒柳米司	1987	アキノ政権の対外関係－模索の一年	国際問題	日本国際問題 研究所	26-37	オープンアクセスなし
	論文	スライド・スクリプト （著）／横山正 樹（訳）	1987	フィリピン・アキノ新政権とその脆い土台	四国学院大学論集67	四国学院大学	307-324	オープンアクセスなし
	論文	吉川洋子	1987	アキノ政権の勢力基盤と内政課題	国際問題	日本国際問題 研究所	2～2 5	オープンアクセスなし
	単行本	浅野幸穂	1988	アキノのフィリピン－混乱から再生へ		アジア経済出 版会		
	論文	野沢勝美	1988	アキノ政権右傾化への軌跡：1987年 のフィリピン	アジア動向年報1988年 版		315-348	https://core.ac.uk/download/pdf/288457852.pdf
	単行本の一部	片山裕	1988	フィリピンの政党と選挙－アキノ政権下 の政党制	川端正久（編）『現代 政治』	法律文化社	238-260	
	論文	新聞徹夫	1988	フィリピン共産ゲリラとアキノ政権	海外事情	拓殖大学海外 事情研究所	31-48	オープンアクセスなし
	論文	沼田由美	1988	アキノ政権－その人 気と実態	海外事情研究所報告22	拓殖大学海外 事情研究所	79-88	オープンアクセスなし
	単行本	アビト・ルベン、山田 経三編	1989	アキノ政権とフィリピン社会		垂紀書房		
	単行本	ルイス・サイモンズ著 ／鈴木康雄訳	1989	アキノ大統領誕生：フィリピン革命はこ うして成功した		筑摩書房		
	単行本	サイモンズ、ルイス （著）／鈴木、 康雄（訳）	1989	アキノ大統領誕生		筑摩書房		
	単行本	アビト、ルベン／千 野、 靖子	1989	アキノ政権とフィリピン社会－わたしの伝 えたいフィリピン		垂紀書房		
	単行本	サイモンズ、ルイス （著）／鈴木、 康雄（訳）	1989	アキノ大統領誕生		筑摩書房		

アキノ	論文	野沢勝美	1989	アキノ政権の農地改革	アジアトレンド48	アジア経済研究所	68-105	オープンアクセスなし
	論文	渋谷英章	1990	アキノ政権の教育政策—中等教育改革プログラムの検討を中心として	江戸川女子短期大学紀要 5		65-52(42-55)	オープンアクセスなし
	単行本の一部	清水展	1990	聖マリーを待つ時間—アキノ政権誕生の底流	阿部年晴/伊藤亜人『民族文化の世界（下）—社会の統合と動態』	小学館	416-446	
	論文	高埜健	1990	アキノ政権下の米軍基地問題—変わりゆく比里「特殊関係」のなかで	海外事情	拓殖大学海外事情研究所	43-59	オープンアクセスなし
	論文集の一部	滝川勉	1991	フィリピンにおけるアキノ政権下の農地改革—経過と問題点	東南アジアの土地制度と農業変化（研究双書 No.406）	梅原（編）アジア経済研究所	5-36	https://core.ac.uk/download/pdf/288463269.pdf
	単行本の一部	永野善子	1991	アキノ政権下の農地改革—ネグロスからの視点	西川潤／日本ネグロスクャンペーン委員会（編）『援助と自立—ネグロス島の経験から』	同文館出版	111-140	
	単行本	清水展	1991	文化のなかの政治——フィリピン「二月革命」の物語		弘文堂		
	論文	小池賢治	1991	アキノ政権下のアヤラ財閥—多角化の新展開と所有経営構造の変化	アジア経済	アジア経済研究所	60-84	オープンアクセスなし
	論文	森澤恵子	1991	対外債務重圧下のフィリピン経済—1991～92年の経済安定プログラムとアキノ政権	季刊経済研究	大阪市立大学経済研究所	31-57	https://disv03.media.osaka-cu.ac.jp/il/meta-pub/G0000438repository_KJ00000287121
	論文集の一部	LAMBERTE, Mario B.	1992	アキノ政権の民営化政策	野沢／他（編）『フィリピンの規制緩和と政策』（A S E A N 等現地研究シリーズNo.11）	アジア経済研究所	65-107	https://core.ac.uk/download/pdf/288444113.pdf
	単行本	ヒル, ジェラルド N.（著）／出川沙美雄（訳）	1992	アキノ暗殺		講談社		
	論文集	浅野幸穂	1992	フィリピン—マルコスからアキノへ（アジア現代史シリーズ 2）		アジア経済研究所		https://ir.ide.go.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=3080&pn=1&count=208&order=17&lang=japanese&page_id=39&block_id=158
	単行本	津田守／横山正樹（編）	1992	日本・フィリピン政治経済関係資料集—マルコス文書, アキノ証言集および関連文書選		明石書店		
	論文	伊藤述史	1992	アキノ政権における政軍関係	法学研究65巻4号	慶應義塾大学	87-119	https://core.ac.uk/download/pdf/145786118.pdf
	論文	EVANGELISTA, Oscar L.	1993	フィリピンにおけるアキノ政権と民主主義の回復	大阪外国語大学アジア学論叢	大阪外国語大学アジア研究会	177-189	
	単行本	國安正昭	1996	フィリピン市民革命の真相：ピープル・パワーの勝利	第14章「マルコス政治と」ピープル・パワー（人民の力）革命	日本地域社会研究所		
	単行本の一部	鈴木静夫	1997	物語 フィリピンの歴史		中央公論社	259-290	
	単行本	デイビッド・ワーフェル 著、大野 拓司 訳	1997	現代フィリピンの政治と社会 マルコス戒厳令体制を超えて		明石書店		
	論文	片山裕	1999	アキノ大統領の政治的リーダーシップ	海外事情、拓殖大学海外事情研究所		p2-18	オープンアクセスなし
	単行本の一部	デイビッド・J. スタインバーグ 著堀芳枝 訳 石井正子 訳 辰巳頼子 訳	2000	フィリピンの歴史・文化・社会 単一にして多様な国家	7 マルコス時代 8 アキノ時代	明石書店		
	単行本の一部	川中 豪	2003	民主化の背景と制度改革の展開 第1章 フィリピンの民主化と制度改革	アジアの民主化過程と法：フィリピン・タイ・インドネシアの比較、経済協力シリーズ202	アジア経済研究所	21-39	https://core.ac.uk/download/pdf/288449054.pdf
	論文	西村 知	2009	フィリピンの社会経済変化：包摂と排除の経済進化過程		鹿児島大学リポトリ、経済学論集 7 3 巻	96-106	https://core.ac.uk/download/pdf/144568557.pdf
	単行本	五十嵐誠一	2011	民主化と市民社会の新天地—フィリピン政治のダイナミズム		早稲田大学学術叢書		
	単行本	日下渉	2013	サビエンティア30 反市民の政治学 フィリピンの民主主義と道徳		大学出版部協会		
	論文	関 恒樹	2013	スラムの貧困統治にみる包摂と非包摂——フィリピンにおける条件付現金給付の事例から——	アジア経済 5 4 巻 1 号		47-80	オープンアクセスなし
	単行本	山根健至	2014	フィリピンの国軍と政治-民主化後の文民優位と政治介入	第二章	法律文化社		
	論文	鈴木 有理佳	2016	2015年のフィリピン 和平プロセス停滞のままアキノ大統領選任へ	アジア動向年報		321-348	https://core.ac.uk/download/pdf/288457087.pdf
	単行本の一部	増原綾子他編	2018	はじめての東南アジア政治	3章 フィリピン	有斐閣		

	単行本	カルティニ著、牛江清名訳	1940	暗黒を超えて（若き蘭印女性の書簡集）		日新書院		
	単行本	カルティニ著、早坂四郎訳	1955	光は暗黒を超えて		河出新書		
	単行本	シファスマンタリ・スロト、舟知恵・松田まゆみ訳	1982	民族意識の母カルティニ 伝		井村文化事業社		

カルティニ	論文	土屋健治	1984	カルティニの心象風景(＜特集＞東南アジアの世界像)	東南アジア研究	京都大学東南アジア研究センター		
	単行本の一部	土屋健治	1986	カルティニ再論	日蘭学会(編)『オランダとインドネシア』	山川出版社	217-271	
	論文	カルティニ, ラテン・アジュン著／富永泰代訳	1987	ジャワ人に教育を―1903年1月にカルティニが記した覚書	南方文化14	天理南方文化研究会	199-212	オープンアクセスなし
	論文	富永泰代	1991	カルティニの「世界認識」の形成過程―カルティニの読書体験についての一考察	南方文化18	天理南方文化研究会	33-55	オープンアクセスなし
	単行本	土屋健治	1991	カルティニの風景		めこん		
	論文	富永泰代	1993	カルティニの著作と追悼記事について―十九世紀末ジャワとオランダにおいてカルティニはどのように認識されていたのか	史林	京都大学史学研究会	124-142	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/230334
	単行本	土屋健治	1994	インドネシア―思想の系譜		勁草書房、		
	論文	白石隆	1996	「インドネシアの近代における「わたし」―カルティニの ik とスワデイの saya	『東南アジア研究』第34巻1号 (特集＜インドネシア国民の形成＞―故土屋健治教授を偲んで)	京都大学東南アジア研究所	5-20	オープンアクセスなし
	単行本	服部美奈	2001	インドネシアの近代女子教育―イスラム改革運動のなかの女性		勁草書房		
	論文	松本由香	2005	「インドネシアの服飾にみるナショナル・デザインの創造―建国の母カルティニの事例を中心として	『風俗史学』29号	日本風俗学会	118-123	オープンアクセスなし
	論文	相澤 里沙	2009	「民族/民の信仰」の発見―カルティニにおけるジャワの近代化と宗教	南方文化 36	天理南方文化研究会	1-25	オープンアクセスなし
	論文	相澤 里沙	2010	カルティニにおける「新しい時代」の人間像	宗教研究 83巻4号		1599-1600	オープンアクセスなし
	論文	青木恵理子	2012	蘭領東インドにおけるロマンチック・ラブと近代家族：ジャワ女性の解放を希求したカルティニの視点から	龍谷大学国際社会文化研究所紀要14号		65-84	https://mylibrary.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/bodyview.do?bodyid=BD00003664&elmid=Body&fname=r-sbk-ky_014_006.pdf&loginflg=on&block_id=_363&once=true
	論文	ミヤ・ドウイ・ロスティカ	2016	インドネシアの国民形成期におけるカルティニの思想とその政治―日本の津田梅子との比較を手がかりとして―	国士舘大学審査学位論文			https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=10394&item_no=1&attribute_id=63&file_no=3
	論文	ミヤ・ドウイ・ロスティカ	2017	【シンポジウム：「21世紀の近代化」を考える】報告Ⅲ：19世紀末オランダ領東インドにおけるカルティニの思想―近代化の視点から考える―	国士舘大学政治研究		151-157	https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=11392&item_no=1&attribute_id=63&file_no=3
	単行本の一部	青木恵理子 編	2018	女たちの翼―アジア初期近代における女性のリテラシーと境界侵犯的活動	第6章 カルティニの読書ネットワーク(富永泰代)	ナカニシヤ出版		
	単行本の一部	小林寧子	2018	「国家・英雄・ジェンダー―カルティニ像の変遷	『歴史の生成―叙述と沈黙のヒストリオグラフィ』小泉順子(編)	京都大学学術出版会、	23-73	
	単行本	富永泰代	2019	小さな学校―カルティニにおけるオランダ語書簡集研究		京都大学学術出版会		
	論文	弘末 雅士	2021	東インド文学とインドネシア民族主義：植民地支配者と異なるヨーロッパ人との出会い	なじま特別号	立教大学アジア地域研究所	63-70	https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=21028&item_no=1&page_id=13&block_id=49
	単行本の一部	岩崎育夫	2021	近代アジアの啓蒙思想家	第2章 それは私の一生の望みです！―インドネシアカルティニとハッタ	講談社	95-134	

	単行本の一部	竹田龍児	1975	阮朝初期の清との関係(1802-1870)	山本達郎編『ベトナム中国関係史』	山川出版社、		
	単行本	古本元夫	1991	ベトナム賞賛主義者の民族政策史―革命の中のエスニシティ		大月書店		
	単行本の一部	小倉貞男	1997	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	第3章 南進の時代・国際社会との出会い	中央公論新社		

阮福映	単行本の一部	嶋尾 稔	2001	阮朝—『南北一家』の形成と相克	池端雪浦他（編）『岩波講座東南アジア史第5巻 東南アジア世界の再編』	岩波書店	25-48	
	単行本	桃木至朗	2011	中世大越国家の成立と変容		大阪大学出版会		
	論文	多賀 良寛	2014	阮朝治下ベトナムにおける銀流通の構造	史学雑誌, 123(2)		171-204	オープンアクセスなし
	論文	望月直人	2018	境界と匪賊——一九世紀中国・ベトナム間における「越境」と清朝-阮朝関係-	東洋史研究, 77(2)		199-233	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/265363
	論文	川口 洋史	2020	ラーマー世王と阮福映（1782—1802年）	国研紀要155		99—158	https://core.ac.uk/download/pdf/327259271.pdf
	論文	吉川和希	2022	「19世紀前半～半ばにおけるベトナム阮朝の地方支配の変遷と土司—諒山省を中心に」	『歴史学研究』1022		16-32	オープンアクセスなし
	論文	吉川和希	2023	19世紀初頭のベトナム北部山地における阮朝の支配の変遷。	東南アジア研究, 60(2)		117-145	https://kyoto-seas.org/wp-content/uploads/2023/01/600201_Yoshikawa.pdf

ゴ・ディン・ジエム	論文	辻井博	1975	南ベトナムの米経済と米政策—統計的・実証的分析—	東南アジア研究13(1)	京都大学東南アジア研究センター	19-44	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/55797/1/KJ00000132942.pdf
	論文集の一部	グエン・スアン・ギア（著）／白石昌也（訳・解説）	1982	米国・傀儡政権期の南ヴェトナムにおける人口構造と人口移動に関する初步的見解	大阪外国語大学アジア研究会（編）『現代アジア社会の研究（1981年度特定研究報告書）』	大阪外国語大学アジア研究会	183-204	オープンアクセスなし
	論文	グエン・テ・アイン	1987	1960年代の南ベトナムにおける仏教徒の政治参加	Discussion Paper series	上智大学アジア文化研究所		オープンアクセスなし
	論文	武田康裕	1995	対外援助の政治力—米国の南ベトナム援助と内政改革—	国際関係論研究	国際関係論研究会	23-55	オープンアクセスなし
	論文	遠藤聡	1997	ベトナム労働党の外交闘争と南ベトナム解放民族戦線	早稲田大学大学院文学研究科紀要. 第4分冊,	日本史東洋史西洋史考古学	3-15	https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1168&item_no=18&page_id=13&block_id=21
	論文	福田忠弘	2005	ジュネーブ会議後のベトナムにおける統一選挙の実施にむけて。	ソシオサイエンス11		81-95	https://core.ac.uk/download/pdf/144444863.pdf
	論文	下條尚志	2011	ベトナム・サイゴン政権の中部高原統治——先住民の土地所有権に対する政策を中心に——。	アジア経済52(5)		2-31	https://ir.ide.go.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=40693&item_no=1&page_id=39&block_id=158
	論文	下條尚志	2015	脱植民地化過程のモデル化におけるクメール人の言語・仏教・帰属。	アジア・アフリカ地域研究, 15(1)		20-48	オープンアクセスなし
	単行本の一部	吉田元夫	2015	増補新装版 ベトナムの世界史 中華世界から東南アジア世界へ	第5章 冷戦期の「普遍国家」ベトナム	東京大学出版		
	論文	武内房司	2017	大南会社と戦時ベトナムの民族運動：仏領インドシナに生まれたアジア主義企業	東洋文化研究, (19)		31-72	https://glim-re.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4304&item_no=1&page_id=13&block_id=161

論文	論文	沢井実	2022	朝鮮戦争特需以後における経団連防衛生産委員会の模索：日本技術協力会社の設立と南ベトナムへの技術者派遣	アカデミア. 社会科学編(22)		27-44	https://nanzan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=3945&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
----	----	-----	------	--	------------------	--	-------	---

	単行本の一部	石澤良昭、中島節子	1996	カンボジア	第5章 現代のカンボジア	白水社		1945 カンボジア
	単行本	ミルトン・オズボーン／著, 小倉貞男／訳, ノロドム シアヌーク／被伝者, オズボーン, ミルトン	1996	シノスーク 悲劇のカンボジア現代史		岩波書店		
	論文集の一部	天川直子	2001	カンボジアにおける国民国家形成と国家の担い手をめぐる紛争	『カンボジアの復興・開発』第一章	アジア経済研究所	21-65	

シハヌーク	論文集の一部	天川直子	2003	カンボジアの人種主義-ベトナム人住民虐殺事件をめぐる一考察.	『国家・暴力・政治: アジア・アフリカの紛争をめぐって』第3章	アジア経済研究所	109-145	
	単行本	笹川秀夫	2006	アンコールの近代: 植民地カンボジアにおける文化と政治		中央公論新社		
	論文	高橋宏明	2016	1960年代カンボジアの政治体制と社会変化: シハヌーク時代の実態について	東海大学紀要. 教養学部 47		26-270	オープンアクセスなし
	論文	新谷春乃	2018	クメール共和国期 (1970-75 年) における自国史の再編——体制転換後の政治と言論環境に着目して	東南アジア-歴史と文化-(47)		32-49	オープンアクセスなし
	単行本の一部	山田裕史	2022	カンボジア-シハヌークによる政治権力の独占と王政の成立	粕谷祐子『アジアの脱植民地化と体制変動 民主制と独裁の歴史的起源』第15章	白水社		

スカルノ	論文	明石陽至	1976	スカルノ体制と9月20日事件—「9・30事件」研究序説—	社会科学討究	早稲田大学社会科学研究所	21-58	オープンアクセスなし
	論文	木村宏恒	1981	スカルノとインドネシアの国家構想—独立時憲法作成過程を中心に	熊本法学 (30)		189-216	オープンアクセスなし
	論文	首藤素子	1982	アジアの冷戦構造とスカルノ体制	成城法学	成城大学法学会	141-184	オープンアクセスなし
	論文	林理介	1988	スカルノの二大対外闘争と中国の関係—インドネシアの民族主義と地域的覇権主義	東洋研究88	大東文化大学東洋研究所	233-296	オープンアクセスなし
	論文集の一部	岸 幸一	1993	インドネシアの国民国家の形成における慣習首長の地位と役割	地域研究シリーズ6. 東南アジア-政治・社会	アジア経済研究所	72-90	https://ir.ide.go.jp/?action=repository_uri&item_id=31198&file_id=26&file_no=1
	論文	増田与 (編訳)	1994	スカルノ時代の終わりに	社会科学討究	早稲田大学社会科学研究所	1-96	オープンアクセスなし
	単行本	白石隆	1997	スカルノとスリルトー偉大なるインドネシアをめざして—シリーズ: 現代アジアの肖像		岩波書店		
	論文集の一部	作本直行	1997	第5章 インドネシアの憲法制度	『アジア諸国の憲法制度』	アジア経済研究所	157-183	https://ir.ide.go.jp/?action=repository_uri&item_id=30448&file_id=26&file_no=1
	単行本	後藤幹一・山崎功	2001	スカルノ インドネシア「建国の父」と日本 (歴史文化ライブラリー)		吉川弘文館		
	単行本の一部	山崎功	2002	インドネシア 未完の民族革命: 独立宣言からスカルノ末期まで	珈琲雪浦 [ほか]編『若波講座東南アジア史 第8巻』第三章	岩波書店	85-115	
	論文	榎沢英雄	2004	「ゴトン・ロヨン」概念の誕生と変容 -- 植民地期末期からスカルノ期まで	アジア経済45巻6号	アジア経済研究所	2-29	https://ir.ide.go.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=41420&item_no=1&page_id=39&block_id=158
	論文	佐藤俊一	2005	インドネシアの地方制度と分権化	アジア文化研究所研究年報40巻東洋大学学術情報リポートJ		25-35	https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=9658&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
	論文	小林和夫	2006	インドネシアにおける「創られた伝統」の萌芽と制度化の端緒——日本占領期ジャワにおけるゴトン・ロヨン (相互扶助) をめぐって——	東南アジア研究1号		55-77	https://repository.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/53840
	論文	原不二夫	2008	マラヤ共産党とインドネシア共産党: 両党協力の具体像	アジア太平洋研究10		21-47	https://core.ac.uk/download/286942176.pdf
	論文	山本信人	2010	インドネシアの「反米」感情: 外交・デモ・宗教の安全保障化。	法學研究: 法律・政治・社会, 83(3)		101-130	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/download.php/AN00224504-20100328-0101.pdf?file_id=105688
	論文	梅田英春	2011	スカルノ政権下のバリにおける社会主義リアリズム舞踏の再評価	沖縄芸術の科学: 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要23		29-Jan	オープンアクセスなし
	単行本	倉沢愛子	2013	9.30 世界を震撼させた日-インドネシア政変の真相と波紋		岩波書店		
	論文	小林和夫	2014	ジャカルタにおける社会空間と都市空間の政治化—「指導される民主主義」体制前後における「伝統」の変容と首都の「創造」	ソシオロジカ 38.1・ 2		57-83	https://soka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=36490&item_no=1&page_id=138&block_id=68

	論文	小林和夫	2014	スカルノのゴトン・ロコン概念化と日本軍政	創価人間学論集七号		23-44	https://soka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=36544&item_no=1&page_id=138&block_id=68
	論文	金悠進	2019	「連帯」の光と影 第三世界都市バンドンにおける植民地主義とその脱却	年報カルチュラル・スタディーズ7 巻		47-71	https://researchmap.jp/yujinkim/published_papers/31319803
	単行本	鈴木恒之	2019	スカルノインドネシアの民族形成と国家建設（世界史リブレット（人）92）		山川出版社		
	単行本の一部	川村晃一	2022	インドネシアー独立運動の競争性と脆弱な民主制の誕生	柏谷祐子『アジアの脱植民地化と体制変動 民主制と独裁の歴史的起源』第2章	白水社		

	単行本	加納啓良	1979	揺れる多島国家—スハルト体制の15年—		教育社		
	単行本	マクドナルド、ヘミッシュ（著）／増子義孝／北村正之（訳）	1982	スハルトのインドネシア—伝統と近代のジレンマ		サイマル出版会		
	論文	黒柳米司	1982	スハルト新体制の構造的危機—開発のトリロジ—の陥穽	国際問題272	日本国際問題研究所	47-62	オープンアクセスなし
	論文	首藤素子	1983	スハルト新体制初期の対外関係—対米外交の回復過程とその特質について	政治学論集17	駒澤大学法学部	67-107	オープンアクセスなし
	論文	内藤耕	1989	スハルト開発体制下におけるマス・メディアの発展—インドネシア語空間の拡大過程としての考察	法学政治学論究	慶應義塾大学大学院法学研究科内刊行会	71-100	オープンアクセスなし
	論文	白石隆	1992	インドネシアの国家建設—スハルト体制下における技術・戦略産業育成	石井／辛島／和田（編著）『東南アジア世界の歴史的位相』	東京大学出版会	267-280	
	論文集	梅沢達雄	1992	スハルト体制の構造と変容	アジア経済研究所			https://www.id.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Soucho/421.html
	論文集	安中章夫／三平則夫（編）	1995	現代インドネシアの政治と経済—スハルト政権の30年—		アジア経済研究所		https://www.id.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Soucho/454.html
	単行本の一部	大形利之	1995	ゴルカル—スハルトと国軍のはざまで—	安中章夫／三平則夫（編）『現代インドネシアの政治と経済—スハルト政権の30年—』	アジア経済研究所	143-192	
	単行本の一部	加納啓良	1995	農業の変容	安中章夫／三平則夫（編）『現代インドネシアの政治と経済—スハルト政権の30年—』	アジア経済研究所	273-318	
	論文	ヤン・ヒクサス（著）／深尾康夫（訳）	1996	インドネシアと日本の経済関係の政治的背景に関する研究—スハルト政権の誕生からフルタミ危機にいたるまで—	アジア研究所紀要22	垂穂垂夫アジア研究所	93-137	オープンアクセスなし
	単行本	白石隆	1997	スカルノとスハルト—偉大なるインドネシアをめざして—（シリーズ：現代アジアの肖像）		岩波書店		
	論文	岡本正明	1997	スハルト期インドネシアの対外政策ハ〇年代前半に始まる変容—対外政策の原則Bebas Aktifの持つ意味をふまえて	アジア研究43(4)	アジア政経学会	31-64	オープンアクセスなし
	単行本の一部	中島成久	1997	シカナバウの女性—スハルト新体制下の母系制社会の現実	綾部、恒雄（編）『女の民族誌 1』	弘文堂	195-220	
	単行本	村井吉敬／佐伯亮津子	1998	インドネシア—スハルト以後—		岩波書店		
	論文	倉沢愛子	1998	スハルト政権崩壊の歴史的意義	歴史学研究718		26-29	オープンアクセスなし
	単行本	吉村文成	1999	スハルト「帝国」の崩壊		めこん		
	論文集の一部	川村晃一	1999	ポスト・スハルト時代の政治制度改革	佐藤百合（編）『緊急リポート]インドネシア・ワヒド新政権の誕生と課題	アジア経済研究所	20-39	https://www.id.go.jp/Japanese/Publish/Reports/Kidou/Topics/37.html
	論文集の一部	深尾康夫	1999	インドネシア：スハルト政権下の分権化パイロットプロジェクト	岩崎育夫／河森正人／川中豪（編）『アジア諸国における地方政治の構造（アジア経済研究所調査研究報告書）』	アジア経済研究所	98-141	
	単行本	セロ・スマルジャン／ケンノン・ブリージャー（共著）／中村、光男（監訳）／青木、武信／池田、寛二／小國、和子／奥野、克巳／中村、緋沙子／水上、浩（訳）	2000	インドネシア農村社会の変容：スハルト村落開発政策の光と影		明石書店		
	論文	貞好康志	2000	スハルト体制末期インドネシアの「華人」カテゴリーをめぐる諸相：中部ジャワ・スマランでの調査より	国際文化学2	神戸大学国際文化学会	19-34	オープンアクセスなし
	論文	山本伸一	2000	インドネシアの国民統合と権力エリートによる「国民文化」の支配：スハルト政権下の文化状況に関する一考察	社会学研究科論集7	立教大学大学院	33-43	オープンアクセスなし

単行本の一部	村井吉敬	2000	インドネシアの開発再考:スリット体制の崩壊と開発	後藤乾一編『インドネシア—揺らぐ群島国家(アジア太平洋研究選書)』	早稲田大学出版部	59-97	
単行本	宮本謙介	2001	開発と労働:スリット体制期のインドネシア		日本評論社		
単行本の一部	岩崎育夫	2001	アジア政治を見る眼 開発独裁から市民社会へ	第3章 インドネシア—スリット開発主義国家の崩壊	中公新書		
論文	小笠原健二	2001	スリット体制の長期存続要因:支配のための観念形態をめぐって	歴史学研究754		34-43	オープンアクセスなし
論文	岡本正明	2001	改革派に転向したスリット期地方エリートたち:バンテン州新設の政治過程に焦点をあてて	アジア・アフリカ地域研究(京都大学)1		186-211	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/79973
論文	島上宗子	2001	ジャワ農村における住民組織のインボリューション:スリット激権下の「村落:開発」の側面	東南アジア研究38巻44号		512-551	https://kyoto-seas.org/pdf/38/4/380403.pdf
論文	玉木一徳	2002	インドネシアのパンチャシラ・コーボラティスム—スリット開発政治体制の遺制	国士館大学文学部人文学会紀要, 35.		47-59	https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=6716&item_no=1&page_id=13&block_id=21
論文	倉沢愛子	2002	インドネシアの9・30事件と住民虐殺	三田学会雑誌94-4		81-100	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/download.php/AN00234610-20020101-0081.pdf?file_id=87488
単行本	佐藤百合	2002	民主化時代のインドネシア—政治経済変動と制度改革—		日本貿易振興会アジア経済研究所		https://www.id-e.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Soucho/525.html
単行本の一部	佐藤百合	2002	インドネシア—「開発の時代」から「改革の時代」へ	池端雪浦『岩波講座 東南アジア史 第九巻「開発」の時代と「模索」の時代』		65-94	
論文	青木葉子	2006	東南アジアを超えて——華僑・華人史研究のフロンティア インドネシア華僑・華人研究史——スリット時代から改革の時代への転換——	東南アジア研究43巻4号		397-418	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/53836
論文	小林和夫	2006	スリット新秩序体制におけるRT/RW制度の嚆矢 ジャカルタにおける1966年RT/RW法制化	東南アジア—歴史と文化—35号		103-134	オープンアクセスなし
単行本の一部	倉沢愛子	2007	9・30事件（一九六五年）とインドネシア共産党撲滅	松村高夫／矢野久編著『大量虐殺の社会史—戦慄の20世紀—』	ミネルヴァ書房		
論文	百瀬 侑子	2008	インドネシア近現代における政治闘争としての民話——スリット政権期を中心に——	アジア経済49(6)		19-39	https://doi.org/10.24765/ajiakeizai.49.6_19
単行本	増原綾子	2010	スリット体制のインドネシア——個人支配の変容と一九九八年政変——		東京大学出版		
論文	松村 智雄	2012	インドネシア西カリマンタンにおける1967年華人追放事件の経緯	アジア地域文化研究 = Komaba Journal of Asian studies, the University of Tokyo 8	東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻アジア分科	92-111	https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/record/37357/files/acb008006.pdf
論文	増原 綾子	2013	インドネシア・スリット体制下の議会とコンセンサス形成	アジア経済54巻4号		85-116	https://ir.ide.go.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=40540&item_no=1&page_id=39&block_id=158
単行本	倉沢愛子	2013	9/30 世界を震撼させた日—インドネシア政変の真相と波紋		岩波書店		
単行本	本名純	2013	民主化のパラドックス インドネシアにあるアジア政治の深層		岩波書店		
単行本	倉沢愛子	2014	9/30 世界を震撼させた日—インドネシア政変の真相と波紋		岩波書店		
論文	北村由美	2014	『西』への道——オランダにおけるインドネシア出身華人の軌跡	『地域研究』14（2）		219-239	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/266735
単行本の一部	菅英輝	2016	冷戦秩序の変容とジョンソン政権のインドネシア政策	菅英輝『冷戦と「アメリカの世紀」アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成』第6章	岩波書店		
単行本の一部	北村由美	2016	オランダに移住したインドネシア華人のライフヒストリー: インドネシア独立から9・30事件を経て	北村由美編著『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』		19-43	
単行本	貞好康志	2016	華人のインドネシア現代史——はるかな国民統合への道		木犀社		

	論文	馬場公彦	2016	9・30事件後の対インドネシア関係をめぐる中国・台湾の攻防	アジア太平洋研究no.25		81-97	https://core.ac.uk/download/pdf/286942949.pdf
	単行本	倉沢愛子	2020	楽園の島と忘れられたジェノサイド		千倉書房		
	単行本の一部	加藤久典	2021	スハルト政権興亡史―独裁者とムスリムたち	インドネシア―世界最大のイスラームの国第3章	筑摩書房	77-122	
	論文	高地薫	2022	インドネシア9月30日事件の歴史叙述―その形成と発展―	グローバル・コミュニケーション研究11号		287-309	https://kuis.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1955&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1

鄭和	単行本	寺田隆信	1981	鄭和 中国とイスラム世界を結んだ航海者		清水書院		
	論文	宮崎正勝	1986	鄭和航海図にみる15世紀中国の南海認識	歴史評論433	歴史科学評議会	54-65	オープンアクセスなし
	単行本	ルイーズ・リヴァシーズ（著）／君野隆久（訳）	1996	中国が海を支配したとき―鄭和とその時代―		新書館		
	単行本	宮崎正勝	1997	鄭和の南海大遠征 永楽帝の世界秩序再編		中央公論社		
	論文	富尾武弘	1999	インドネシア：イスラム化問題と鄭和の大遠征	インドネシア：言語と文化	日本インドネシア学会	197-214	オープンアクセスなし
	単行本の一部	貞好康志	2000	「民族性」と「在地性」：ジャワの鄭和祭に見る交錯	福井勝義（編）『講座 人間と環境 8 近所づきあいの風景：つながりを再考する』	昭和堂	90-116	
	単行本の一部	小川博	2001	鄭和の遠征	池端雪浦他編『岩波講座 東南アジア史（3）東南アジア近世の成立』	岩波書店		
	単行本	寺田隆信	2017	新・人と歴史 拡大版 21 世界航海史上の先駆者 鄭和		清水書院		
	単行本の一部	中島楽章	2019	鄭和の記憶	鈴木英明『東アジア海域から眺望する世界史』	明石書店		

ネ・ウィン	論文	神戸亮二	1979	試験に立つビルマの内政・外交―18年目に入ったネ・ウィン政権―	世界週報60(16)	時事通信社	48-53	オープンアクセスなし
	論文	佐久間平喜	1982	ビルマ ネ・ウィン政権の歩み	鹿児島大学史録15	鹿児島大学教養部史学教室	1-30	オープンアクセスなし
	論文	村田克己	1983	ポージョウ・ネ・ウィン―軍人政治家の思想と行動	東洋研究66	大東文化大学東洋研究所	189-223	オープンアクセスなし
	論文	村田克己	1984	ネ・ウィン・ビルマ国軍創設とその政治的性格	東洋研究69	大東文化大学東洋研究所	59-90	オープンアクセスなし
	論文	村田克己	1984	ネ・ウィンの行動と哲学	共産主義と国際政治	日本国際問題研究所	39-58	オープンアクセスなし
	論文	西沢信善	1985	ネ・ウィン政権の開発政策と経済実績―1962～74年経済停滞の分析を中心に―	アジア経済	アジア経済研究所	47-63	オープンアクセスなし
	論文集の一部	高橋昭雄	1998	ビルマにおける農地法制の展開と農民の「所有権」―農地国有化とネ・ウィン期の「農地制度革命」を中心に―	加納啓良（編）『東南アジア農村発展の主体と組織―近代日本との比較から―』	アジア経済研究所	29-60	http://hdl.handle.net/2344/00012591
	単行本の一部	高橋昭雄	2002	ビルマ―軍による「開発」の停滞	池端雪浦『岩波講座 東南アジア史 第九巻「開発」の時代と「模索」の時代』	岩波書店		
	論文	中西嘉宏	2003	未完の党＝国家――ネー・ウィンとビルマ社会主義計画党――	東南アジア研究41巻3号		330-360	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2423
	論文	中西嘉宏	2007	官僚制を破壊せよ―ネー・ウィン体制期ビルマにおける行政機構改革と国軍特校の出自―	アジアアフリカ研究6 巻2号	京都大学アジアアフリカ地域研究所	396-413	オープンアクセスなし
	単行本	中西嘉宏	2009	軍政ビルマの権力構造―ネー・ウィン体制下の国家と軍隊（1962～1988）		京都大学学術出版会		
	単行本	根本敬	2014	物語 ビルマの歴史		中央公論新社		
	論文	中西嘉宏	2014	軍と政治的自由化――ミャンマーにおける軍事政権の「終焉」をめぐる――	日本比較政治学会年報16巻		183-205	オープンアクセスなし

バオダイ	単行本	フム・カク・ホエ（著）／白石昌也（訳）	1995	ベトナムのラスト・エンペラー（20世紀メモリアル）		平凡社		
	単行本	白石昌也、難波ちづる、岡田友和、白井拓朗（訳）	2017	外交官・横山正幸のメモワール：バオ・ダイ朝廷政府の最高顧問が見た1945年のベトナム		早稲田大学アジア太平洋研究センター		

	単行本	バー・モウ（著）／橋堀洋一（訳）	1976	ビルマの夜明け―ビルマ独立運動回想録		太陽出版		
	単行本	バー・モウ（著）／橋堀洋一（訳）	1995	ビルマの夜明け―バー・モウ（元国家元首）独立運動回想録 新版		太陽出版		
	単行本の一部	根本敬	2006	「東南アジアにおける「対日協力者」	倉沢愛子ほか編『岩波講座 東アジア・太平洋戦争7 支配と暴力』	岩波書店		
	単行本	根本敬	2010	『抵抗と協力のはざま：近代ビルマ史のなかのイギリスと日本』		岩波書店		

バー・モウ	単行本	根本敬	2012	ビルマ独立への道—バモオ博士とアウンサン将軍（15歳からの「伝記で知るアジアの近現代史」シリーズ）		彩流社		
	論文	武島良成	2014	日本占領期ビルマにおける敵国資産の移譲問題——日本とバ・モオ政府の角逐——	東南アジア—歴史と文化—43号		5-22	オープンアクセスなし
	論文	武島良成	2016	バ・モオ政府（ビルマ）の日本人顧問団	東南アジア—歴史と文化—45号		69-85	オープンアクセスなし
	論文	武島良成	2018	バ・モオ政府（ビルマ）と日本軍の葛藤—バ・モオ暗殺未遂事件の処理をめぐって—	国際政治192号	日本国際政治学会	50-64	https://doi.org/10.11375/kokusaisei.192_50
	単行本	武島良成	2020	「大東亜共栄圏」の「独立」ビルマ		ミネルヴァ書房		

ファン・チュー・チン	単行本の一部	川本邦衛	1980	東遊運動の挫折	山本達郎博士古稀記念論叢編集委員会（編）『東南アジア・インドの社会と文化 上巻』	山川出版社		
	単行本の一部	白石昌也	1981	東遊運動期のファン・ボイ・チャウ—渡日から日・中革命家との交流まで	永積昭（編）『東南アジアの留学生と民族主義運動（叢書・アジアにおける文化摩擦）』	巖南堂書店		
	論文	ヴァン・タオ（著）／川本邦衛（訳）	1983	東遊 維新運動ならびに東京義塾—ヴァン・タオ教授講演要旨	言語文化研究所紀要15	慶応義塾大学	149-159	オープンアクセスなし
	論文	富田春生	1985	墓と記念碑—東遊運動が遺したもの—	南方文化12		189-203	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	東遊運動（ベトナム）をめぐる日仏両当局の対応（I）	大阪外国語大学学報73		111-140	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	潘佩珠の国外退去をめぐって—在日ベトナム人東遊運動の終焉（1）	東洋史研究46/2	東洋史研究会	152-184	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	所謂「シルベール・シェウ事件」をめぐって—東遊運動とその周辺	研究所紀要104	東京大学東洋文化研究所	31-85	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1989	東遊運動（ベトナム）をめぐる日仏両当局の対応（II）	横浜市立大学論叢（人文科学系列）	横浜市立大学学術研究会	249-324	https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/81144/joufs_73_111.pdf
	論文	今井昭夫	1990	ファン・チュー・チンにおける「民主主義」と儒教	東京外国語大学論集40	東京外国語大学	151-175	http://repositor.y.tufs.ac.jp/bits/tream/10108/23496/1/acs040012.pdf
	単行本の一部	白石昌也	2002	二〇世紀前半ベトナムの民族運動	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史七巻 植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』	岩波書店		
	論文	古沢常雄	2012	19世紀末～20世紀初頭における日本とベトナムとの『文明開化』の比較研究：植民地下ベトナムにおけるフランスによる「文明開化」.	法政大学キャリアデザイン学部紀要9		11-45	https://hosei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=7827&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
	単行本の一部	阿曾村邦昭編	2013	ベトナム—国家と民族—上巻	第一章「東遊」するベトナム人、「南遊」する日本人 ファン・フィレー	古今書院	2-7	
	論文	宮沢千尋	2013	クオンデのフォン・チュウ・チン宛書簡と「サンテ監獄事件」：東遊運動崩壊後のクオンデの思想と行動（1）	東洋文化研究（15）		490-461	https://glim-re.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3074&item_no=1&page_id=138&block_id=161
	単行本の一部	橋本和孝	2014	東遊運動と東京義塾—ベトナム・アンチ・コロニアリズムとレシ・プロシティー—	矢嶋道文編『互恵関係と国際交流』	クロスカルチャー出版		
	単行本の一部	吉田元夫	2015	増補新装版 ベトナムの世界史 中華世界から東南アジア世界へ	第3章 ベトナム史におけるインドシナ共産党	東京大学出版		
	論文	橋本和孝	2015	東遊運動から東京義塾へ：『文明新学策』を中心として	劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』	国際日本文化研究センター	119-129	https://core.ac.uk/download/pdf/198398226.pdf
	論文	ダオ テュ ヲン	2016	植民地期ベトナムのドンズー運動と義塾運動—20世紀初頭ベトナム・日本関係史の研究—	金沢大学大学院 人間社会環境研究科 人間社会環境専攻 博士論文			https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=35522&item_no=1&attribute_id=31&file_no=1

	単行本の一部	白石昌也	2002	二〇世紀前半ベトナムの民族運動	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史七巻 植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』	岩波書店	189-212	
	単行本の一部	川本邦衛	1980	東遊運動の挫折	山本達郎博士古稀記念論叢編集委員会（編）『東南アジア・インドの社会と文化 上巻』	山川出版社		
	単行本の一部	白石昌也	1981	東遊運動期のファン・ボイ・チャウ—渡日から日・中革命家との交流まで	永積昭（編）『東南アジアの留学生と民族主義運動（叢書・アジアにおける文化摩擦）』	巖南堂書店		

ファン・ボイ・チャウ	論文	ヴァン・タオ（著）／川本邦衛（訳）	1983	東遊 維新運動なびに東京義塾—ファン・タオ教授講演要旨	言語文化研究所紀要15	慶応義塾大学	149-159	オープンアクセスなし
	論文集の一部	白石昌也	1984	ファン・ボイ・チャウ（ベトナム）と宮崎滔天・孫文との日本における接触	大阪外国語大学タイ・ベトナム語学科（編）『タイ・ベトナムと日本—富田竹二郎教授定年退官記念論集』		61-81	オープンアクセスなし
	論文	富田春生	1985	墓と記念碑—東遊運動が遺したもの—	南方文化12		189-203	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	東遊運動（ベトナム）をめぐる日仏両当局の対応（I）	大阪外国語大学学報73		111-140	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	潘佩珠の国外退去をめぐる—in 日ベトナム人東遊運動の終焉（1）	東洋史研究46/2	東洋史研究会	152-184	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1987	所謂「シルベール・ショウ事件」をめぐる—東遊運動とその周辺	東洋文化研究所紀要104	東京大学東洋文化研究所	31-85	オープンアクセスなし
	論文	白石昌也	1989	東遊運動（ベトナム）をめぐる日仏両当局の対応（II）	横浜国立大学論叢（人文科学系列）		249-324	オープンアクセスなし
	単行本	吉田元夫	1991	ベトナム人共産主義者の民族政策史—革命の中のエスニシティ		大槻書店		
	単行本の一部	白石昌也	1992	ベトナム民族主義者の国民観—ファン・ボイ・チャウの認識を中心として石井／辛島／和田（編著）『東南アジア世界の歴史的位相』	石井／辛島／和田（編著）『東南アジア世界の歴史的位相』	東京大学出版会	225-245	
	論文	今井昭夫	1992	ファン・ボイ・チャウの「社会主義」をめぐる	東京外国語大学論集45		237-250	http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/23560/1/acs045013.pdf
	単行本	白石昌也	1993	ベトナム民族運動と日本—アジア—ファン・ボイ・チャウの革命思想と対外認識		廣南堂書店		
	単行本	白石昌也	1993	ベトナム—革命と建設のはざま		東京大学出版会		
	単行本の一部	小倉貞男	1997	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	第4章 フランス植民地時代 民族革命—ファン・ボイ・チャウの物語	中央公論新社		
	論文	今井昭夫	1997	フエ時代のファン・ボイ・チャウの思想	東京外国語大学論集54		61-72	http://repository.tufts.ac.jp/handle/10108/23651
	論文	今井 昭夫	2006	ファン・ボイ・チャウの日本滞在経験とその思想形成	東京外大東南アジア学11		80-86	オープンアクセスなし
	単行本	白石昌也	2012	日本をめざしたベトナムの英雄と皇子：ファン・ボイ・チャウとクオンテ（15歳からの「伝記で知るアジアの近現代史」シリーズ：1）		彩流社		
	単行本の一部	ファン・フィ・レー	2013	「東遊」するベトナム人、「南遊」する日本人	阿曾村邦昭編『ベトナム—国家と民族—上巻』	古今書院	2-7	
	単行本	橋本和孝	2014	東遊運動と東京義塾——ベトナム・アンチ・コロニアリズムとレシ プロシテ—	矢嶋道文編『互恵関係と国際交流』	クロスカルチャー出版		
	単行本	橋本和孝	2015	東遊運動から東京義塾へ：『文明新学策』を中心として	劉建輝編『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』	国際日本文化研究センター	119-129	
	論文	何純慎	2017	東遊運動期におけるファン・ボイ・チャウの女性論：梁啓超との比較において	比較文化研究（128）		23-35	オープンアクセスなし
	論文	今井昭夫	2017	東遊運動後のファン・ボイ・チャウにおけるアジア連帯論と仏越提携論	東京外国語大学論集95		251-270	http://repository.tufts.ac.jp/handle/10108/89924
	論文	何純慎	2018	東アジアにおける女性の植民近代性の考察—林獻堂とファン・ボイ・チャウとの比較を中心に	台湾日本語文学報（43）		187-212	https://www.airitilibrary.com/Publication/alDetailedMesh?docId=17272226-201806-201807260001-201807260001-187-212

ホセ・リサル	東京都千代田区日比谷公園に「ホセ・リサル博士銅像」						1890s 独立運動	
	単行本	木村毅	1961	ホセ・リサルと日本		アポロン社		
	単行本	セザール Z. ラヌーサ、グレゴリオ F. ザイデ著/木村毅訳	1961	日本におけるホセ・リサル		アポロン社		
	単行本	ホセ・リサル/ 岩崎玄訳	1976	リ・メ・タンヘレー—我が祖国に捧げる		勤草書房		
	単行本	ホセ・リサル/ 岩崎玄訳	1976	反逆・暴力・革命：エル・フィリプスチスモ		井村文化事業社		
	単行本	池端雪浦	1987	フィリピン革命とカトリシズム		勤草書房		
	論文	西村謙一	1991	学校教育の中のホセ・リサル—フィリピンに見る国民統合の一試み	版大法学41-2/3		279-297	オープンアクセスなし
	単行本	カルロス・キリノ（著）／駐文館編集部（訳）	1992	暁よ紅に わが血もて染めよ—フィリピン独立運動の悲運のヒーロー ホセ・リサルの生涯		星雲社		
	単行本	安井祐一	1992	ホセ・リサルの生涯：フィリピンの近代と文学の先駆者		芸林書房		
	論文	池端雪浦	1994	フィリピン国民国家の原風景—ホセ・リサルの祖国観と国民観—	アジア・アフリカ言語文化研究46, 47 合併号 創立30周年記念		43-78	オープンアクセスなし
	単行本の一部	鈴木静夫	1997	物語 フィリピンの歴史	6巻 フィリピン革命	中央公論社	99-118	
	単行本	永野善子	2000	歴史と英雄 フィリピン革命百年とポストコロニアル	神奈川大学評論ブックレット	御茶の水書房		
	単行本	イレート、レイナルド・C. /ラファエル、ビセンテ・L. /キプイエン、フロロ・C. 【著】永野 善子【編・監訳】	2004	フィリピン歴史研究と植民地言説	第三部 変わるホセ・リサル像 フロロ・C・キプイエン	めこん		
	単行本	早瀬晋三	2009	未完のフィリピン革命と植民地化	世界史リフレット	山川出版社		

	論文	藤田悟	2015	現代に生きる英雄ホセ・リサル：フィリピン独立運動と日本	究:ミネルヴァ通信、号 50		40-43	オープンアクセスなし
	単行本	永野善子	2016	日本／フィリピン歴史対話の試みーグローバル化時代のなかで		御茶の水書房		
	論文	中里彰	2020	ホセ・リサールの研究：改革者か革命家か?	九州国際大学教養研究、27巻1号		1-22	https://kiu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=778&item_no=1&attribute_id=173&file_no=1

ホー・チ・ミン	単行本	ホー・チ・ミン／他(著)／日中翻訳センター(訳)	1975	ホー・チ・ミンとその戦友たち		青年出版社		
	単行本	ディビッド・ハルバースタム	1977	ホー・チ・ミン(角川文庫)		角川書店		
	単行本	大森実	1979	ホー・チ・ミン		講談社		
	論文	殿岡昭郎	1981	インドシナ戦争におけるホー・チ・ミンの政治指導	東京学芸大学紀要 第3部門社会科学33		97-112	オープンアクセスなし
	単行本	ファン ヴァンドン	1990	ホー・チ・ミン：一人の人間、一つの民族一つの時代、一つの偉業		外文出版社		
	単行本	吉田元夫	1996	ホー・チ・ミンー民族解放とドイモイ(現代アジアの肖像10)		岩波書店		
	単行本の一部	小倉貞男	1997	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のタイナミズム	第4章 フランス植民地時代 独立ーホー・チ・ミンの物語	中央公論新社		
	論文	古田 元夫	1998	ホー・チ・ミンーベトナム独立	歴史地理教育 / 歴史教育者協議会 編 (576)		84-85	オープンアクセスなし
	単行本	ティン、タイン【著】/ 中川 明子【訳】	2002	ベトナム革命の素顔		めこん		
	単行本	坪井善明	2002	ヴェトナム現代政治		東京大学出版会		
	単行本	小倉貞男	2002	ヴェトナム 歴史の旅	2 ホチミン廟	朝日新聞出版社	32-40	
	論文	栗原浩英	2003	ホー・チ・ミンとスターリン：ホー・チ・ミン訪ソ(1950年2月)の歴史的意義	アジア・アフリカ言語文化研究 65	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	19-44	http://repository.tufs.ac.jp/bits/tream/10108/20173/1/jaas065002.pdf
	論文	今井昭夫	2005	ホー・チ・ミン時代の「英雄」たち：ベトナムにおける「英雄宣揚」と人民動員	東京外国語大学論集 70		151-171	http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/23726
	論文	福田忠弘	2005	ジュネーヴ会議後のベトナムにおける統一選挙の実施にむけて。	ソシオサイエンス=Waseda Review of Socio-science, 11		81-95	https://core.ac.uk/download/pdf/144444863.pdf
	単行本	坪井善明	2008	ヴェトナム新時代ー「豊かさ」への模索	第六章 ホー・チ・ミン再考	岩波書店		
	論文	藤田 和子	2011	中越国境からみたベトナム戦争(上・中・下) 1950年、1954年のホー・チ・ミンの決断を中心に	アジア・アフリカ研究 / アジア・アフリカ研究所 [編] 51 (1)	アジア・アフリカ研究所	28-35	オープンアクセスなし
	単行本の一部	古田元夫	2014	「ホー・チ・ミンー民族と階級の相克の中で」	趙景遠・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座 東アジアの知識人 4 戦争と向き合って』	有志舎		
	単行本の一部	吉田元夫	2015	増補新装版 ベトナムの世界史 中華世界から東南アジア世界へ	第3章 ベトナム史におけるインドシナ共産党	東京大学出版		

	単行本	世界政治資料編集部(訳)／尾崎、隆(監修)	1980	ボル・ポト政権の犯罪ーカンボジア人民革命法廷の記録ー		新日本出版社		
	論文	谷口弘行	1989	カンボジアにおける社会主義下の横図ーボル・ポト(Pol Pot)政権下の大量虐殺(genocide)へ至る政治過程	神戸学院法学19-3・4	神戸学院大学法学会	369-429	オープンアクセスなし
	論文集の一部	高橋宏明	1989	カンボジア現代史におけるボル・ポト時代ー現代カンボジア社会を理解するためにー	石澤、良昭／坪井、善明／遠藤、宣雄(編)『カンボジアの文化復興 第13巻ー第16次、第17次、第18次アンコール遺跡および伝統文化復興の研究・調査ー』	上智大学アジア文化研究所	107-122	https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20201020044
	単行本	富山泰	1992	カンボジア戦記ー民族和解への道		中央公論新社		
	単行本	中森ガリエル	1992	ルビイ・コネクションーカンボジアの和平を占うボル・ポトの秘密兵器		双葉社		
	単行本	小倉貞男	1993	ボル・ポト派とは？(岩波ブックレット No.284)		岩波書店		
	単行本	クリストフ・ベシュー／友田錫(訳)	1994	ボル・ポト派の素顔		日本放送出版協会		
	単行本	小倉貞男	1998	ボル・ポト派消滅後のカンボジア	世界650	岩波書店	163-171	オープンアクセスなし
	論文集	天川直子編	2001	カンボジアの復興・開発		日本貿易振興会アジア経済研究所		
	単行本	清野真巳子	2001	禁じられた緋ーカンボジア現代史紀行		連合出版		
	単行本	井上恭介、藤下超	2001	なぜ同胞を殺したのか？ボル・ポト：望ちたユー・トピアの夢		NHK出版		
	単行本	駒井洋	2001	新生カンボジア		明石書店		
	論文集の一部	天川 直子	2002	カンボジアの紛争：「ボル・ポト問題」の一般化に向けての試論	天川編『カンボジアの復興・開発』研究双書 No.518 所収		143-158	https://www.id.e.go.jp/library/Japanese/Public/Reports/InterimReport/pdf/2001_03_06_06.pdf
	論文	コロク ヴィチット ラタ	2003	ボル・ポト後カンボジアにおける教育システム再構築に関する一考察：ベトナム化と再クメール化の過程に注目して	教育学研究70 巻 3 号		383-392	https://www.jstage.jst.go.jp/article/kyoiku/1932/70/3/70_3_383/article/-char/ia

ボル・ポト	単行本	デーヴィッド・チャンドラー著、山田寛訳	2003	ボル・ポト:死の監獄S21クメール・ルージュと大量虐殺(		白揚社		
	単行本の一部	天川 直子	2003	「カンボジアの人種主義：ベトナム人住民虐殺事件をめぐる一考察」	武内進一編『国家・暴力・政治：アジア・アフリカの紛争をめぐる』	アジア経済研究所	109-146	
	論文	小倉貞男	2003	クメール・ルージュ国際人道裁判で何が裁かれようとしなのか。	立命館国際研究, 15(3)		355-369	https://www.ritsumei.ac.jp/ir/issn/aru/assets/file/journal/15-3_ogura.pdf
	単行本	山田寛	2004	ボル・ポト＜革命＞史ー虐殺と破壊の4年間		講談社		
	単行本	山田寛	2004	ボル・ポト＜革命＞		講談社選書メチエ		
	単行本	笹川秀夫	2006	アンコールの近代：植民地カンボジアにおける文化と政治		中央公論新社		
	論文	小林知	2007	ボル・ポト時代以後のカンボジアにおける農地所有の編制過程-トンレサップ湖東岸地域農村の事例。	アジア・アフリカ地域研究 6(2)		540-558	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/80071
	単行本	久郷ボンナレット	2009	虹色の空ーカンボジア虐殺を超えて 1975-2009		春秋社		
	論文	岡田千あき	2011	カンボジアのスポーツ発展への取り組み:ボルポト時代を生きたサッカー選手のライフヒストリーから	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 37		231-250.	https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/6242/
	単行本	永瀬一哉	2012	クメール・ルージュの後を追うジャングルに隠れたボル・ポト秘密司令部		同時代社		
	論文	平山雄大	2012	カンボジアにおける初等教育開発の歴史的展開 ②。	早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊, 2(19).		221-232	https://core.ac.uk/download/pdf/144440213.pdf
	論文	田中康友	2014	カンボジア和平と日本外交ー独自の和平案策定をめぐるー	北陸大学紀要, (37).		151-167	https://core.ac.uk/download/pdf/228425049.pdf
	単行本の一部	吉田元夫	2015	増補新装版 ベトナムの世界史 中華世界から東南アジア世界へ	第5章 冷戦期の「普遍国家」ベトナム3 多民族国家ベトナムの統合、4 新しいインドシナ	東京大学出版会	182-227	
	論文	木村光豪	2016	カンボジアにおけるコミュニティ・ジャスティス：記憶と歴史の共有による和解の促進	関西大学法学論集, 65(6)		133-176	https://kansai-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=3893&item_no=1&tribute_id=19&file_no=1

マハティール	単行本	マハティール・ビン・モハマド (著) / 高多理吉 (訳)	1983	マレー・ジレンマ		井村文化事業社		
	単行本	坪内隆彦	1994	アジア復権の希望マハティール		垂紀書房		
	単行本	根津清	1994	マハティールーアジアの世紀を創る男		ザ・マサダ		
	単行本	マハティール・ビン・モハマド (著) / 石原慎太郎	1994	「No」と言えるアジアー対欧米への方策		光文社		
	単行本	萩原宜之	1996	ラーマンとマハティールーブミトラの挑戦ー(現代アジアの肖像14)		岩波書店		
	単行本	M・ラジendra (著) / 安藤一生 (訳)	1995	マハティールの夢ー先進国めざすマレーシアー		サイマル出版会		
	論文	鳥居高	1998	マハティールによる国王・スルタン制度の再編成		アジア経済研究所	19-58	オープンアクセスなし
	単行本	山田 満	2000	多民族国家マレーシアの国民統合:インド人の周辺化問題		大学教育出版		
	単行本	金子 芳樹	2001	マレーシアの政治とエスニシティ:華人政治と国民統合		晃洋書房		
	論文	岸脇 誠	2001	マレーシアにおける人種とエスニック問題:マハティール首相の人種観を中心に	人種問題研究(大阪市立大学)234		155-171	https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/ii/meta/pub/G0000438repository_KJ00000234633
	単行本の一部	岩崎育夫[著]	2001	アジア政治を見る眼 開発独裁から市民社会へ	第4章 マレーシアー揺れるマハティールの開発主義国家	中公新書		
		小野沢純	2002	マレーシアの開発政策とポスト・マハティールへの展望	国際貿易と投資/国際貿易投資研究所 編13(2)		4-19	https://iti.or.jp/kikan50/50onozawa.pdf
	単行本の一部	池端雪浦	2002	岩波講座 東南アジア史 第九巻 「開発」の時代と「模索」の時代	マレーシアー経済成長と種族間平等の追求 鳥居高	岩波書店	123-154	
	単行本	林田 裕章	2002	マハティールのジレンマ:発展と混沌のマレーシア現代史		中央公論新社		

	論文	鳥居高	2003	マハティール政権下の開発政策とイスラム	アジア研究, 49(1),		19-36.	https://www.jstage.jst.go.jp/article/asianstudies/49/1/49_19/_pdf/-char/ja
	単行本	花崎泰雄	2004	誇りと偏見: マハティール 1981-23	玉大学紀要. 教養学部, 40(2)		79-94	https://sucra.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=15746&item_no=1&attribute_id=24&file_no=1
	単行本	中村 正志	2003	マハティール首相, 最後の挑戦: 2002年のマレーシア	アジア動向年報 2003年版		323-354	https://core.ac.uk/download/pdf/288457448.pdf
	論文集	鳥居高 編	2006	マハティール政権下のマレーシア — 「イスラム先進国」をめざした22年—		アジア経済研究所		https://www.idie.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Show/557.html
	論文集	アジア経済研究所	2018	ポスト・マハティール時代のマレーシア: 政治と経済はどう変わったか	アジア経済研究所			https://ir.idie.go.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=15746&item_no=1&attribute_id=24&file_no=1
	論文	中川 豪	2019	マハティール政権の罪過 - 長期的優遇政策で生じた新たなジレンマ	政治経済学研究論集		1 - 20	https://meiji.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=15746&item_no=1&attribute_id=24&file_no=1

マルコス	論文	滝川勉	1984	マルコス政権下における農地改革の展開と「緑の革命」	アジア経済25・5・6	アジア経済研究所	151-169	オープンアクセスなし
	論文	土佐弘之	1986	周辺資本主義の再編と「国家」—マルコス戒厳令体制 (1972-81) 期の政治経済変動	東洋文化研究所紀要 101	東京大学東洋文化研究所	1-138	オープンアクセスなし
	論文	森澤恵子	1986	フィリピンにおける対外累積債務と国有企業の増大—マルコス政権下における工業化の一断面	季刊経済研究	大阪市立大学経済研究所	87-106	オープンアクセスなし
	論文	沼田由美	1986	マルコス政権の崩壊	海外事情	拓殖大学海外事情研究所	100-109	オープンアクセスなし
	単行本	加藤博	1986	ラバン—フィリピンの黄色い革命		大月書店		
	単行本	芝生瑞和	1986	黄色い花の革命—フィリピン1986		毎日新聞出版社		
	論文	片山裕	1987	マルコス政権の行政官僚制度	国際問題322	日本国際問題研究所	53-66	オープンアクセスなし
	単行本の一部	吉川洋子	1987	マルコス戒厳令体制の成立と崩壊—近代的家産制国家の出現	河野健二『近代革命とアジア』	名古屋大学出版会	53-118	
	論文集の一部	渡部恒夫	1987	1980年代初頭のフィリピン労働運動・社会運動の現状—米＝マルコス独裁体制と反ファシズム・反米帝国主義・反封建の民族民主革命の胎動	鹿児島経大論集	鹿児島経済大学	141-162	オープンアクセスなし
	単行本の一部	土生長穂	1989	マルコス体制の成立と崩壊第三世界の開発と独裁	土生長穂, 河合恒生編『第三世界の開発と独裁』第3章	大月書店		
	単行本	シーグレーブ, スターリング (著) / 早良, 哲夫 / 佐藤, 俊行 (訳)	1989	マルコス王朝 上		サイマル出版会		
	単行本	シーグレーブ, スターリング (著) / 早良, 哲夫 / 佐藤, 俊行 (訳)	1989	マルコス王朝 下		サイマル出版会		
	論文	田巻松雄	1990	マルコス政権下における共産主義運動の展開と2月政変	アジア経済	アジア経済研究所	50-66	オープンアクセスなし
	単行本	清水展	1991	文化のなかの政治—フィリピン「二月革命」の物語		弘文堂		
	単行本	浅野幸徳	1992	フィリピン—マルコスからアキノへ (アジア現代史シリーズ 2)		アジア経済研究所		
	単行本	ベリンダ・A・アキノ (著) / 伊藤美名子 (訳)	1992	略奪の政治—マルコス体制下のフィリピン		同文館出版		
	単行本	田巻松雄	1993	フィリピンの権威主権体制と民主化		国際書院		
	単行本	浅野幸徳	1993	フィリピン—マルコスからアキノへ		アジア経済出版会		
	単行本の一部	國安正昭	1996	フィリピン市民革命の真相: ビーブル・パワーの勝利		日本地域社会研究所		
	単行本の一部	鈴木静夫	1997	物語 フィリピンの歴史	第13章「ニノイ・アキノとフィリピン政治」、第14章「マルコス政治と」ビーブル・パワー (人民の力) 革命	中央公論社	965-86	
	単行本	デイビッド・ワーフェル 著、大野 拓司 訳	1997	現代フィリピンの政治と社会—マルコス戒厳令体制を超えて		明石書店		
	単行本	ワーフェル, デビッド (著) / 大野, 拓司 (訳)	1997	現代フィリピンの政治と社会—マルコス戒厳令体制を超えて—		明石書店		
	単行本	デイビッド・ワーフェル / 大野拓司	1997	現代フィリピンの政治と社会—マルコス戒厳令体制を超えて—		明石書店		
	単行本の一部	デイビッド・J. スティンバーク 著 堀 芳枝 訳 石井 正子 訳 辰巳 頼子 訳	2000	フィリピンの歴史・文化・社会—単一にして多様な国家	7 マルコス時代 8 アキノ時代	明石書店		
	論文	五十嵐 誠一	2001	ポストマルコスにおける「政党なき」民主主義に関する一考察: 政治制度, 政治文化, 社会構造とその変化に注目して	ソシオサイエンス (早稲田大学) 7		119-148	http://hdl.handle.net/2065/12774
	論文	五十嵐 誠一	2002	フィリピンとビルマの民主化比較考察—統合的アプローチを手がかりとして	アジア研究48巻4号	アジア政治経済学会	52-72	オープンアクセスなし

	論文	稲垣 雅子	2002	マルコスの政治支配	神戸市外国語大学研究 科論集54		167-180	オープンアクセスなし
	単行本	五十嵐誠一	2011	民主化と市民社会の新地平ーフィリピン 政治のダイナミズム		早稲田大学学 術叢書		
	単行本	山根健至	2014	フィリピンの国事と政治-民主化後の文 民優位と政治介入	主に第一章	法律文化社		
	単行本	日下 渉	2013	サビエンティア30 反市民の政治学 フィリピンの民主主義 と道徳		大学出版部協 会		
	単行本の一部	増原綾子他編	2018	はじめての東南アジア政治	3章 フィリピン	有斐閣		

ラッフルズ	単行本	コリス, M 根岸富二 郎訳	1969	ラッフルズーその栄光と苦悩		アジア経済研 究所		
	単行本	別技篤彦	1977	東南アジア地域研究史序説ーラッフル ズの業績を中心としてー		大明堂		
	単行本の一部	荻野昌弘	1999	ラッフルズの思想：空間を作る論理	杉谷滋（編）『シンガポ ール：清廉な政府・巧妙な 政策』	御茶の水書房	27-41	
	単行本	ナイジェル・バーリ	1999	スタンフォード・ラッフルズ シンガポールを 創った男		凱風社		
	単行本の一部	生田滋	2001	ラッフルズとシンガポールの建設	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史 第5巻 東 南アジア世界の再編』	岩波書店	295-320	
	単行本の一部	岩崎育夫	2013	物語 シンガポールの歴史	序章 シンガポールの曙ー 19世紀初頭	中央公論社		
	単行本の一部	田村慶子	2016	シンガポールの基礎知識	ラッフルズ、歴史ー年國家 の誕生と独立	めこん	47-73、 74-75	
	単行本の一部	上田 信	2018	悪の歴史東アジア編 下 南・東南アジ ア編 隠されてきた「悪」に焦点をあて、 真実の人間像に迫る	ラッフルズ	清水書院		
	単行本	坪井祐司	2019	ラッフルズ：海の東南アジア世界と「近 代」		山川出版社		
	単行本の一部	弘未雅士	2022	海の東南アジア史ー港市・女性・外来 者	第3章 近世後期の東南 アジア社会ー現地人首長 とヨーロッパ勢力	筑摩新書		

ラーマ四世	単行本の一部	石井米雄	1984	仏教徒とクリスチャンーモンクットに見る 19世紀シャムの文化摩擦ー	石井米雄編『差異の事件 誌ー植民地時代の異文 化認識の相克（叢書アジ アにおける文化摩擦 第 7冊）』	巖南堂書店	199-244	
	論文	矢野 暢	1992	「チャクリー改革」論序説(1) ーラー マ四世と「近代化」ー	東南アジア研究30 巻 1 号		3-36	https://kyoto-seas.org/pdf/30/1/300101.pdf
	論文	池本 幸生	1994	ラーマ四世期の「消極的」経済政策	東南アジア研究 31 (4)	京都大学東南 アジア地域研 究研究所	299-324	https://kyoto-seas.org/pdf/31/4/310401.pdf
	単行本の一部	友杉孝	2001	港市バンコクの誕生と変容	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史 五巻 東 南アジア世界の再編』		265-293	
	単行本	トンチャイ・ウィニツ チャクン 石井米雄 訳	2003	地図がつくったタイー国民国家誕生の歴 史		明石書店		
	単行本の一部	小泉順子	2006	歴史叙述とナショナリズムータイ近代史 批判序説	第三章 もう一つの「ファミ リー・ポリテイクス」、第五章 アンナ・レオノーウェンスの問 いかけるもの、第六章 「朝貢」と「条約」のあいだ	東京大学出版 会		
	単行本	柿崎一郎	2007	物語 タイの歴史	第3章 領域國家の形 成ー開国～不平等条約 の改正	中央公論新社	103-148	
	単行本	石井 米雄	2015	もうひとつの「王様と私」		めこん		
	単行本	矢野秀武	2017	現代宗教文化研究叢書6 國家と上座仏教 タイの政教関係		北海道大学出 版会		
	単行本の一部	赤木攻	2019	タイのかたち	四章 「チャート・タイ」の創 出	めこん	139-202	

ラーマ5世/チュラロン コン王	論文	高橋正樹	1989	タイ・チャクリー改革と社会の二重性の 再構築	大学院研究年報 法学 研究科篇（上）中央大 学大学院事務局		93-105	オープンアクセスなし
	単行本の一部	矢野暢	1992	政治の（前近代）と（近代）ー「チャクリ ー改革」論	矢野編『講座 東南アジ ア学 第7巻 東南アジア の政治』	弘文堂		
	論文	玉田芳史	1996	チャクリー改革と王権強化ー閣僚の変 遷を手がかりとしてー	チャクリー改革とタイの近代 國家形成（重点領域研 究「総合的地域研究」成 果報告書シリーズ No.11）	京都大学東南 アジア研究セン ター	121-177	https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/187523/1/ias-011_034.pdf
	単行本の一部	玉田芳史	2001	タイの近代國家形成	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史 五巻 東 南アジア世界の再編』	岩波書店	213-235	
	単行本	トンチャイ・ウィニツ チャクン 石井米雄 訳	2003	地図がつくったタイー国民國家誕生の歴 史		明石書店		
	単行本	小泉順子	2006	歴史叙述とナショナリズムータイ近代史 批判序説		東京大学出版 会		
	単行本の一部	柿崎一郎	2007	物語 タイの歴史	第3章 領域國家の形 成ー開国～不平等条約 の改正	中央公論新社	p103- 148	
	単行本	矢野秀武	2017	現代宗教文化研究叢書6 國家と上座仏教 タイの政教関係	北海道大学出版会			
	単行本の一部	赤木攻	2019	タイのかたち	四章 「チャート・タイ」の創 出pp139-202	めこん		
	銅像			名古屋：覚王山日泰寺				

	単行本の一部	リー・クアンユー[著] ；黄彬華，呉俊剛 編；田中恭子訳	1988	シンガポールの政治哲学：リー・クアン ユー首相演説集、上下		井村文化事業 社		
	単行本	竹下秀邦	1995	シンガポールーリー・クアンユウの時代		アジア経済出 版会		

リー・クアンユー	単行本	岩崎育夫	1996	リー・クアンユー——西洋とアジアのはざま で——（現代アジアの肖像15）		岩波書店		
	単行本	リー・クアンユー （著）／小牧利 寿（訳）	2000	リー・クアンユー回顧録（上）：ザ・シ ンガポール・ストーリー		日本経済新聞 社		
	単行本	リー・クアンユー （著）／小牧、 利寿（訳）	2000	リー・クアンユー回顧録（下）：ザ・シ ンガポール・ストーリー		日本経済新聞 社		
	単行本	田村慶子	2000	シンガポールの国家建設 ナショナリ ズム、エスニシティ、ジェンダー 明石ライ ブラリー 18		明石書店		
	単行本の一部	岩崎育夫	2001	アジア政治を見る眼 開発独裁から市 民社会へ	第5章 シンガポール—開 発主義国家維持の懸命 な努力	中公新書		
	論文	金丸 裕志	2001	シンガポールの「国家イデオロギ―」政策	九大法学81		49-81	オープンアクセスなし
	単行本の一部	岩崎 育夫	2002	シンガポール：開発志向の「強い国家」 と「弱い社会」	池端雪浦編『岩波講座 東南アジア史第9巻「開 発」の時代と「模索」の時 代』	岩波書店	155-178	
	単行本	岩崎 育夫	2005	シンガポール国家の研究「秩序と成長」 の制度化・機能・アクター		風響社		
	単行本の一部	田村慶子	2011	シンガポール『超管理国家』の繁栄と ジレンマ	清水一史・田村慶子・横 山豪志編『東南アジア現 代政治入門』	ミネルヴァ書房		
	単行本の一部	岩崎育夫	2013	物語 シンガポールの歴史	第4章 リー・クアンユー時 代—一九六五～一九〇年	中央公論社		
	単行本	グラハム・アリソン、ロ バート・D・ブラック ウィル、アリ・ウィン著 ；倉田真木訳	2013	リー・クアンユー、世界を語る		サンマーク出版		
	単行本	リー・クアンユー、小 池洋次監訳	2014	リー・クアンユー、未来への提言		日本経済新 聞出版社		
	単行本の一部	田村慶子	2016	シンガポールの基礎知識	リー・クアンユー、2 年国家 の様々な顔、3 歴史—年 国家の誕生と独立	めこん	23-43、 44-45、 47-73	
	論文	川崎賢一	2016	リー・クアンユーの死とシンガポールの文 化政策・文化制度の将来	Journal of global media studies 号 17- 18 ページ： 159-169			
	論文	奥村みさ	2016	リー・クアンユーの遺産とポスト・リー時代 を迎えたシンガポールのゆくえ	国際英語学部紀要 = Journal of College of World Englishes 18 (1)	中京大学国際 英語学部	37-42	https://chukyo- u.repo.nii.ac.jp/ ?action=reposit ory_uri&item_id =566&file_id=5 4&file_no=1
	論文	鈴木 陽一	2018	シンガポール共和国の建国について：人 民行動党政府とイギリス帝国 1963- 1966	アジア・アフリカ言語文化 研究 (Journal of Asian and African Studies) 95	東京外国語大 学アジア・アフリ カ言語文化研 究所	65-137	http://repositor y.tufs.ac.jp/han dle/10108/9245 9
	論文	川中 豪	2018	一党優位支配と選挙システム	年報政治学 69 (2) 日本政治学会	日本政治学会	152-176	https://www.jst age.jst.go.jp/ar ticle/nenpouseij igaku/69/2/69_ 2_152/ pdf
	論文	松岡 昌和	2019	リー・クアンユーの目に映る香港	アジア遊学 (234)		74-91	オープンアクセスなし